

<b>Title</b>	第 11 回 ピア・スーパービジョン（総合研究所 News：聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター）
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.1, 2013.9 : 31-32
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4607">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4607</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

# 総合研究所 News

## 聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター 第11回 ピア・スーパービジョン

ピア・スーパービジョンとは保健・福祉現場などで対人援助の仕事をしている人たちが、同じ悩みや課題を持つ者として語り合い、日々の業務を見直すための研修交流会である。今回のプログラムは本学人間福祉学科卒業生を中心とした福祉のネットワークSWnet (Seigakuin Welfare Net) の企画による。

2013年3月2日(土)13:30～16:40  
聖学院大学4号館4階第一会議室

### —プログラム—

#### 開会の挨拶

大島 知子 (SWnet代表 99W)

#### 卒業生からの報告

河副 美春 100W

篠崎 洋治 100W

### ピア・スーパービジョン

#### 全体報告

#### 総括

柏木昭 聖学院大学総合研究所名誉教授  
スーパービジョンセンター顧問

#### 閉会挨拶

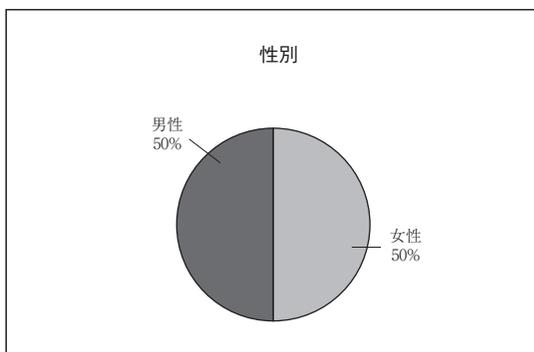
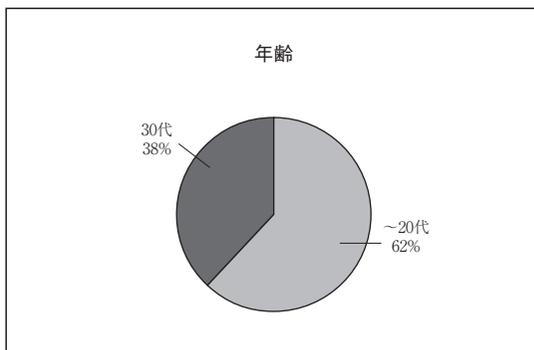
中村磐男 聖学院大学こども心理学科教授  
スーパービジョンセンター長

#### 司会

山田裕太

(聖学院大学人間福祉学科2001年度卒業)

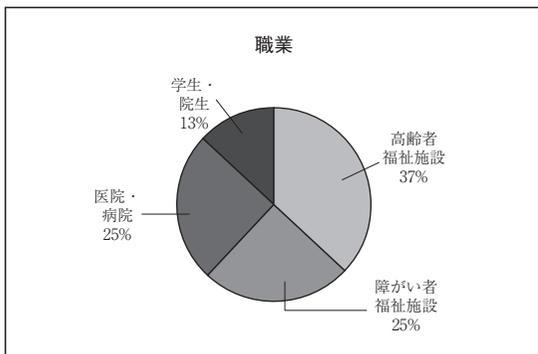
### グラフ



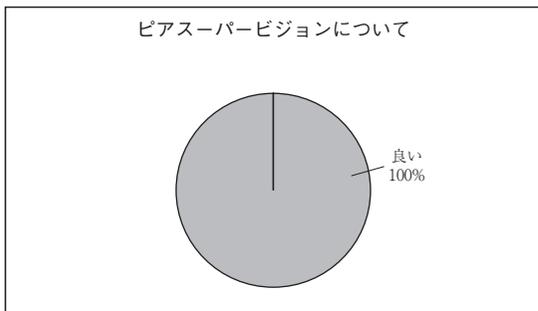
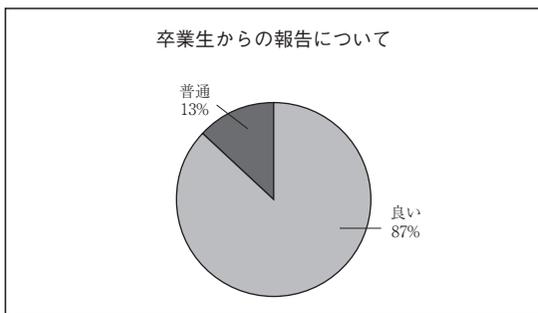
\* 回答者の年齢は、「～20代」が62%だった。  
性別は、男性女性半々だった。



柏木 昭 聖学院大学総合研究所名誉教授(右奥)  
中村磐男 聖学院大学大学院教授(左前)



\*職業別では、「高齢者福祉施設」が37%と最も多く、次に「障がい者福祉施設」「医院・病院」ともに25%だった。



\*講演「ソーシャルワーカーにかかわり」について、「良い」が87%と高い評価だった。  
ピア・スーパービジョンについて、「良い」が100であった。

## 自由意見

### 第一部 講演「ソーシャルワーカーのかかわり」について

- ・具体的な話が聞けてたのしめました。ご本人の転職の気持ち、意味も伝えて頂き、職種の内容だけでなく、職業人、社会人としての意気込みも感じられました。ありがとうございました。
- ・お二人のゲストスピーカーのキャリアの形成の違いがおもしろく、それぞれの話しに引き込まれ

ました。

・働きながら感じる困難や課題を素直に話していただき、共感することや、励まされること、また、新しい視点（一生同じケースはあたらぬ）を得ることができました。

・発表された方が、とてもよく準備くださっていて、仕事の様子がよく伝わりました。ありがとうございました。

・お二人の意見を聞くことができた。自分が思うこともお話をされていた。

・お二人の話はとても共感できました。

・ただ一方的に聴くだけではなく、質疑応答などoutputできるようなことを、盛り込んで頂ければと思いました。

### 第二部「ピア・スーパービジョン」について

・時間の限りはあるものの、聞いてみたい事を聞ける環境がこれほどに嬉しく喜びのあるものだ、と感動しています。

・傾聴とソーシャルワークの多様性、compassionがソーシャルワークの要となることを教えられました。ありがとうございます。

・互いの現状、困難、ストレス対処法を情報共有することができました。

・最近感じていたことを話すことができ、満足しました。

・一部を踏まえてお話できた。

・悩んでいるのは自分だけじゃないと改めて感じました。

・気軽にoutputできる場でよかったと思います。

### その他の意見や希望など。

・参加させて頂き、ありがとうございました。

・グループスーパービジョンの参加を考えております。

・充実した時間でした。参加者が少なく残念でした。

・SWのパワーをもらって帰ることができます。ありがとうございました。

・outputできる場に加え、なぜ悩みや問題が起こるのか…解決への方向性を話せるような場作りをしていただければと思いました。